

FUKUOKA YOUTH TIMES

福岡地区青年会広報誌
vol.14(2017.10.31 発行)
--- † ---
福岡地区青年会広報係

† 「博多にきんしゃ〜い」に参加して

古賀教会・井上友里子

博多にきんしゃいは、第一回から参加させていただく度に、私に新たな出会いを通し、新たな気づきを与えてくれています。また、今年は特に新しい挑戦の年だったように思います。変化していく福島と共に、模索しながらも寄り添ったものにできるようにと、スタッフの方々が練ってこられたのは、今までと違ってこどもだけを招待するという形での支援でした。こどもたちの表情や、言葉、行動、全てが昨年までとは全然違うように感じました。大人があつて自分たちがあるという状況ではなく、自分たちは自分たちとして存在しているという自覚が彼ら、彼女らの中にあるように感じました。遠く離れた地で、いつも一緒にいる大人がいないということは不安だったと思うし、勇気がいる場面もたくさんあったと思います。

でも、自分たちだけだからこそ、ありのまま正直な姿を彼らは見せてくれたように思います。博多で、ありのままのびのびと過ごしてほしい…それは、時とともに変わっていく中でも、スタッフの方々が繋いでこられた変わらない思いです。

また、感じたのは、参加してくれているみんなは、特別だけど特別じゃないということです。人を大切にするというのはどういうことだろう、と、4日間、幾度も心の中で問う時がありました。こどもたちは、ありのまま、まっすぐに人と向かおうとする中で、言い過ぎちゃったりやり過ぎちゃったりする時もありました。そんな時、私たちが4日間だけだからとそのままにしないで、まっすぐに向き合うこと。互いにうやむやにしたりごまかしたりせず、しっかり伝え、受け止めること。上手に伝えられない時もあり悩みましたが、それを通して、こうしたほうがいいよねって、ちゃんと考え合うことができ良かったって思います。4日間、みんなは出会った時とはそれぞれ違う姿を見せてくれました。帰る時、みんなは内側に、何か自信を持って見えるように見えました。そんな姿に、不器用な私も自信をもらいました。全く違う1人1人を大切にすることって、私にとってはこうやって1人1人とまっすぐに向き合うこと。繋いでいきたい思いに、私自身がついていけるよう、そして一回り大きくなった彼らのエネルギーに負けないう、また1年間、しっかり生きたいと思いました。

す。最近ではコレジオ生も積極的に青年会と関わらせていただくようになったこともあって、今回のリレートークを私が担当させていただくことになりました。

私は高校1年生の時に小神学校に入学しました。神学生となり、それまでとは違った形で教会との関わりを持つようになってから私が特に感じたこと、それは、若者の少なさでした。地元の伊万里教会で私と一緒に堅信を受けたのは10人を超えていたと思います。しかし、その中で今でもまともに教会に来ているのは私だけ…。教会に行っても私と同じくらいの歳の人は居ないという状況に寂寥感を抱いていました。

そんな私に勇気を与えてくれたのが「青年会」の存在でした。「青年会」では自分とほとんど歳が変わらない人たちが様々な行事等を通して教会で活躍している。このことが私にとってとても嬉しいことです。神学生という立場から見ても、これだけ「青年会」が頑張っているんだから俺たちも、と思います。青年会の皆様、これからもよろしくお願いします。

(福岡コレジオ 吉浦勲)



† リレートーク「ワタシとセイネン会」 - (6) -

皆さんこんにちは！私は福岡コレジオの神学生吉浦勲で

- 福岡地区青年会 ・E-mail : fukuoka.info@gmail.com
- ・ブログ「FYCB」 : <http://ameblo.jp/f-ttk/>
- ・Facebook ページ : 「カトリック福岡地区青年会」



これからの予定

Facebook のページ
をご覧ください。

